

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2021年
3月19日
第112号

ニワトコ (スイカズラ科)

園内、ひょうたん池の前で古く折れたあとの株から若木が伸びはじめました。きれいな緑色の葉の傍では、ブロッコリーに似た花蕾が見られます。これから初夏にかけて淡黄色の花が開くことが楽しみです。山野に自生し、家庭でも植栽される落葉高木で、枝には太い髓があります。ニワトコの漢名は「接骨木 (セッコツボク)」で、その茎と枝を基原とする生薬名も植物名と同じ同じ「接骨木」と呼んでいます。日本の民間薬としては、枝の黒焼きの粉末に、うどん粉、酢を加えて練ったものを骨折した患部に湿布薬として用いたり、葉や枝を煮出した浸出液をお風呂に、入浴剤として神経痛やリュウマチに利用します。日本の漢方医学では使用しませんが、中医学では祛風湿薬として使用されています。また、ニワトコの蕾は山菜として知られますが、茹でた後よく晒さないと激しい下痢を引き起こすので要注意です。

ハマタイセイ (アズラナ科)

日々暖かさが増し、園内の花々も色付いてきました。第一圃場では、スッと伸びた花茎の上に黄色の花が目にとまります。ヨーロッパ中南部からアジア原産の二年草です。この植物の標準和名はハマタイセイですが、別名の「ホソバタイセイ」の方がメジャーなので、薬草園のラベルでも後者のほうを採用しています。古代から青色染料をとる為ヨーロッパを中心に広く栽培され、今もその名残で各地に生えています。1年目は葉柄のない大きな株元がロゼット状で2年目に花茎を伸ばします。1年目の葉を収穫し、発酵を繰り返して石灰水と混ぜて染料にします。生薬の板藍根 (バンランコン) は、ハマタイセイまたはキツネノマゴ科リュウキュウアイの根を基原とし、日本の漢方医学では使用されませんが、中医学では清熱解毒薬として利用されています。板藍根は、日本でも健康補助食品の原料として使用されています。